

入院後早期から離床を行う事の効果に関する調査のお知らせ

昔は『脳卒中をおこしたらまずは安静』ということが言われていました。しかし、現在では、不必要な安静はかえって体にとって良くないこと、例えば肺炎、筋肉の衰え、食欲不振や胃腸障害など様々な障害(二次障害とよびます)の要因となることがわかっています。脳卒中の専門病棟として、私達は常日頃から、これらの二次障害予防のための観察やケアに取り組んでいます。

この度、小倉記念病院脳卒中専門病棟では、離床がいつどのように進められているか、また、離床を早期より始めた方とそうでない方ではどのような違いがおこるのかなど、過去の診療録を振り返って調べることにしました。

この調査を脳卒中発症早期より安全で効果的な離床が進められるよう、早期離床基準を検討するために役立てたいと思っております。

【研究の対象・期間・内容】

小倉記念病院において2015年6月から2016年2月の間に脳卒中でSCU・総合6階に入院した患者さんを対象としています。調査対象期間内に入院した患者さんの診療録から、離床の状況や機能障害の程度、ADL(日常生活動作)などについて情報を得て、早期離床による効果を統計学的に解析します。

この調査についての、お問い合わせ(資料の入手方法を含む)、またはご自身の診療情報につき開示のご希望がある場合、対象者となることを希望されない場合は、下記へご連絡下さい。

【個人情報の管理について】

個人情報漏洩を防ぐため、個人を特定できる情報を削除し、データの数値化、暗号化など厳格な対策をとり、第三者が個人情報を閲覧することができないようにしております。また、本研究結果は(学会や論文等)、個人が特定できる情報を一切含まない形で発表します。

【連絡・問い合わせ先】

小倉記念病院

SCU看護師 渡邊俊一

〒802-8555

北九州市小倉北区浅野三丁目2番1号

電話 093-511-2000(代)

